



横浜 SSJ ニュース

第 35 号
2023 年 2 月 28 日 発行

発行：横浜 SSJ（特定非営利活動法人 横浜市精神障がい者就労支援事業会）

〒232-0022 横浜市内南区高根町 3-17-12 KS ビル 6F

TEL：045-315-2622 FAX：045-315-2623

発行責任者：理事長 勝澤 昭

編集：広報委員会

印刷：すきっぷ阪東橋

就労支援の現場から

横浜 SSJ 統括施設長 金子 由紀子

新しい年を迎え、今年度も慌ただしく終わろうとしています。2020 年の年明けにコロナ禍が始まり、丸 3 年が過ぎました。もはやマスクが洋服の一部のような感覚で、マスクのない生活が取り戻せるのか、想像することができません。この間、目まぐるしい社会情勢の変化に振り回され、希望していた仕事に就けなくなってしまった利用者や、退職を余儀なくされてしまった OB もいます。

私は 2009 年に横浜 SSJ へ入職し、就労移行と就労継続支援 B 型の現場で支援員としてこれまで多くのことを学ばせていただきました。当時は精神障がい者の働く場はまだ乏しく、雇用率もかなり低かったと記憶しています。年々、法定雇用率は引き上げられるものの、3 障害の中で精神だけが取り残される形でした。しかし、2018 年（平成 30 年）、障害者雇用義務の対象に精神障がい者が加わったことで、障害者雇用の流れが大きく変化することになったのです。その前年あたりから、「義務化されるので精神障がいの方を雇用したい」と企業担当者から事業所へ直接ご連絡いただく機会が増え、就労支援員だった私は連日のように企業見学や説明会に足を運びました。当時は「雇用率を満たすために雇用しなければいけない」という率直な声を伺うことも多く、精神障がい者の働く場が増えることへの期待との間で、私たち支援者の胸中は複雑でした。それでも、様々な就労支援機関・行政機関の地道な働きかけや、実際に雇用された当事者の方々の努力によって、近年「ぜひうちで活躍してもらいたい、一緒に働きたい」と積極的に雇用に取り組む企業が増えてきていることを考えると、私たちが葛藤した日々も無駄ではなかったのだと思います。

横浜 SSJ には「働きたいと願う精神障がい者が当たり前に関わることができる社会づくりに貢献する」という理念がありますが、企業就労のサポートをする中で“当たり前に関わる”ことのハードルの高さを目の当たりにしてきました。“障がいがあるから〇〇はできないだろう”という言葉は何度も耳にしました。そのような経験から、昨年、法人内の就労移行の利用者の方を法人の職員として採用した際、現場の職員たちが“どの業務をやってもらうか、どんなサポートが必要なのか”など多少悩むことがあるのではないかと気掛かりではありました。しかしながら、職員たちは共に働けることを心から喜び、一切の隔てもなく、当たり前に関わりをフォローし合いながら働いています。手前味噌ではありますがなんて素敵な職場なんだろうとほっと胸を撫で下ろしました。

私たちの“当たり前に関わる社会づくり”はまだまだ途上にあります。自らが実践を積み重ね発信していくことの意義を改めて考える一年となりました。来年度は、2024 年（令和 6 年）の障害者総合支援法改正に向けた議論が大詰めを迎える年となります。今回の法改正では、障がい者の就労を支えるための“雇用・福祉施策の連携強化”が盛り込まれることが想定されています。就労支援を担う我々の役割や在り方が大きく問われるのではないのでしょうか。横浜 SSJ は自分たちにできることを試行錯誤しながら取り組み、皆さんと共に成長していく組織であり続けたいと思っています。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

広報委員会より

横浜 SSJ の同人誌が完成しました！

今年の5月に同人誌委員会を発足してから約半年…。
3名の利用者さんを中心に会議や連絡調整、確認作業を行いながら、
やっと完成させる事が出来ました！

会議では作品の内容のチェック、表紙のタイトル決め、発行部数などなど、
話し合う事が多く、時間も掛かりました。。(委員会の皆さん、仕事や作業の後にも
関わらず、参加してくれてありがとうございます(>_<))

完成後にも委員会で振り返りを行い、皆さんの感想を伺いました。
「良い滑り出しだった。」「出来は上場、すごく良かった。」という反面、「文字数が多
くて読みづらかったかも。」「もっと沢山の人の見てもらえる様に置き場所の工夫が必要。」と改善点も出てきました。

第2弾はどのような内容にするのか、早くも話に出たので、次も乞うご期待下さい！！



記念すべき第1号！



新人紹介

横浜 SSJ に新しい職員が入りました！

長所：
コミュニケーション
が得意



北部事業所所属

金子

短所：整理整頓が
できない

Q. 休日の過ごし方は？

A. 基本寝てるかゲームをしています。

Q. 仕事で大変なこと

A. 寒いのが苦手なので外作業が大変です。

Q. 気持ちの切り替え方は？

A. 好きな音楽を聴いてぼーっとしてるか
好きなゲームをしています。

元は営業をしており、この業界は初めてで右も
左もわかりませんが、活躍できるよう精一杯頑張り
ます！

長所：
やさしい所



本部事務局所属

内藤

短所：流されやすい
ところ

Q. 休日の過ごし方は？

A. コーヒーの焙煎をすることと部屋でま
ったりすること

Q. 仕事で大変なこと

A. 報連相を怠らないように、人に伝える
事を記憶に残しておくこと。

Q. 気持ちの切り替え方は？

A. 全く違う場所で、全く違うこと、一人
で時間を過ごす事

まだまだ若輩者ですが、マイペースに頑張りま
す。何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願い
たいします。

すきっぷ阪東橋（就労継続支援 B 型事業所）



印刷、検品が終わった封筒。これから箱詰めして納品です。



ちょっと散らかっていますが、忙しい作業場の感じが伝わりますでしょうか？

すきっぷ阪東橋は、すきっぷ関内で利用希望者が増え続け手狭になったため、新たにすきっぷ2館目として2022年6月にオープンしたばかりの新しい事業所です。

主たる事業所のすきっぷ関内から移籍していただいた方や、新規で利用開始された方を含め登録者13名でスタート、現在は18名となりました。初めての半年間で、馴染みのある関内の事業所へ戻られる方も複数名いらっしゃいましたが、過去に横浜SSJを利用していたOBの方々が戻って来られるなど、さまざまなご縁を感じる年でした。3～4名でゆったりと使っていた作業場も、今では全ての席が埋まり至る所に作業資材が積み、活気のある作業所らしい風景が見られるようになりました。異動や新規採用で配属された職員たちでスタートし、まさに手探りの日々でしたが、利用者の方々の前向きな想いと優しさに支えられ無事に初年度を終えようとしています。ドタバタの日々を共に歩みを進めてくださったことに感謝申し上げます。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

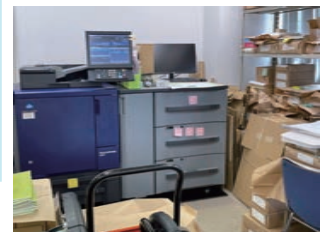
すきっぷ施設長 金子由紀子



紙折り機 これ1台で二つ折り、観音折、三つ折りなどが出来ます。すごいスピードで枚数をこなします。



う～ん、仕事場って感じですね！



印刷業務の命、印刷機!!

北部事業所

福祉施設を利用してみた感想と今後の意気込み

初めて挨拶します。今年の4月2日よりこちらのSSJ北部斎場に採用されました。川嶋五郎と申します。私は今まで一般就労の障がい者枠で就労していましたが色々あり退職。発達障害者の対応に豊富な経験で評判がある障がい者就労支援センター（ジョブコーチ）日吉様へ相談したところ、今年の2月にこちらの法人へ見学に伺いました。その時にこちらで働く職員の皆様が私達見学者（ジョブコーチと私の2名）にも、素敵な笑顔であいさつされていて感動しました。また、控室の作業を従業員のお二人で行っていた時に、お互いに声かけする様子を見て私自身もお互い声を掛けあう事ができる関係性をSSJの皆さんと、築いていけたらいいなと思いました。

こちらで実際に働くことになり、一般就労と違うと感じたことは、先輩とのコミュニケーションの取り方を学ぶことができる環境があると実感いたしました。例えば、私がずれた発言と一緒に仕事している先輩にしても、スタッフさんがすぐに入って下さり先輩への翻訳？みたいなことをしてくれていた事です。他に、一般就労との違いを感じたと思ったのは振り返り面談が毎月2回ある事です。そのおかげで、ストレスのコントロールと一緒にスタッフさんが取り組んで貰えて、私自身も落ち着く事が出来たと感じました。具体例として、この職場では必ず2回の振り返りの福祉サービスがあります。初め、雰囲気は面談に近いものがありましたが、良くスタッフさんの姿勢をみると産業医面談に似ている感じがしました。また、振り返り面談の時にスタッフさんから挨拶、感謝、謝罪など大人であれば当然の社会スキルはストレスのコントロールが必要とのお言葉もあり、誠に毎月2回の振り返りという、福祉サービスには驚くばかり。一般就労の時には予想もできない丁寧さに感動を覚えました。

最後に意気込みとしては、感情をコントロールするうえで無理しない。水分補給やトイレためらわず申告する。また、先輩とペアを組んで仕事に取り組むときには自分からも「このように動きたいと思います。もしずれていたらすみません。」等、発信する積極的な姿勢をみせていきたいです。

その他には、挨拶するときに体育会系のノリではなくきちんと言葉にする為に帽子の着脱行為とセットで行う。バスなどの公共交通機関等では、独り言で悪口の誤解を防止する為にサラリーマン川柳みたいなのを小さなメモノート見ながら問答する。

以上を実践しながら背負わず自分のペースを把握できるようになれたらいいなと思いました。今後ともよろしくお願いいたします。

eスポーツ大会

北部事業所&
久保山・戸塚事業所 合同企画



8月8日に第一回目北部事業所と久保山・戸塚事業所合同によるeスポーツ大会を開催しました。初めの自己紹介ではゲームにまつわるエピソードを皆さんに話して頂きました。

スーパーファミコンをプロジェクターにつなげて、マリオカート・マリオワールド・ボンバーマン・ぷよぷよなどの対戦戦を行いました。対戦カードは参加者に自信の有無を伺い、対戦相手に力の差が出ないように組み合わせました。終始和やかな雰囲気で行われ、皆さん笑顔多く楽しんでいた様子が見られました。

応援する声にも力が入り、大将戦など大きな盛り上がりを見せる場面もありました。結果は久保山チームの勝利となりましたがゲームの勝敗に関わらず、普段する事のできない事業所同士の交流を図る事ができました。アンケートの結果を踏まえて、第二回を12月に行いました。今後も継続して行えるレクを企画していきたいです。



GO TO ラー博

久保山・戸塚事業所

久保山・戸塚事業所では従業員さんの発案でレクを企画し、希望者を募ってラーメン博物館への外出とお茶会を行いました。博物館では好きなお店に入ってラーメンをすすり、お土産選びや、ギャラリーコーナーでらーめんの歴史を学ぶなど楽しめました。

食後のお茶会ではコーヒーやスイーツを味わい、皆さん会話を楽しまれていました。途中席替えなども行い、職員・従業員間の交流を行う事ができました。



各事業所紹介
ジョブアシスト横浜
ワークショップメンバーズ

登録者数

- ・ジョブアシスト横浜（就労移行）…… 12 名
 - ・ワークショップメンバーズ
（就労継続支援 B 型）…… 56 名
- <2023. 2 月現在>

今回ジョブアシスト横浜&ワークショップメンバーズでは
メンバーさんたちに「ジョブ&ワークってどんなところ？」と聞いて
みました！メンバーさんたちの率直なコメントから、どんな事業所なのか
想像ができるでしょうか？皆さん、ご協力いただきありがとう
ございました！

Q. ジョブ&ワークって
どんなところ？





皆さんも人生で一度は何かしらの危機を感じたことがあるのではないのでしょうか。生死に関わるような大きな危機から人生を左右するような危機、日常的なプチ危機まで様々な危機を乗り越えて生きていらっしゃると思います。今回のテーマは「私の危機一髪!!」今回も原稿を寄せてくださったみなさま、ありがとうございました！

私の危機一髪

私は2010年3月にお陰様で大学を卒業できたが、その時にわが人生の危機一髪を経験した。

2009年4月に中国にて新型インフルエンザが発見された。その時は対岸の火事くらいにしか思っていなかったのだが瞬く間に世界中に感染は拡がりパンデミックとなり、国内では映画「感染列島」が公開されるなど人々はこの病気に恐怖した。大学でもこの病気に罹患した学生に対し配慮がなされるようになった。

2009年冬。私は卒業論文の執筆を終え製本し、後は手渡しで提出するだけと安心してた。のだが、そのタイミングで新型インフルエンザに罹患。しかもその日は卒論の手渡しによる提出日だったのだ！仕方なく私は高熱の体と頭で委任状を書き、父に卒論を託し提出して貰った。無事に卒論は受理され、私は卒業できたのだ。いやはや流行病は誠に恐ろしい。

ワークショップメンバーズ 酒井 梨那



冷蔵庫で危機一髪？

実は、これは実際に自分がピンチだった話ではない。

かつて勤務していたところで、自分の写真が、『特定の女の子』の名前を書かれて冷蔵庫に入れられたことがあった。名前を書かれていた相手と親しい、『後輩の子』からは、「萩原さん、寒かったですね」と言われた。それだけの話である。

告白するが、自分はその「寒かったですね」と言った『後輩の子』のことが好きだった。

しかし、その相手には、彼氏がいた。自分と『同期に入社した人』で、新入社員だった彼女を口説いたのだそうである。そのことを、自分はまるで知らなかった。知ったのは、自分と『同じ部署の別の女の子』に打診をしたからである。

自分は、過去に別のところで、『周囲』からはやしたてられるままに、勇気を振り絞って「恋の公開告白」をしたことがあり、その同じ『周囲』から「職場環境を乱した」と言われ、非難を受けたことがある。以来、恋を告げるという行為には慎重になり、絶対に誰にも知られぬようにしなければならぬと思ってきたし、それは正しいことなのだろうとも今でも思う。

話をもどすと、その事実を知った自分は、カモフラージュのために、会社のほかの女性たちにも気があるふりをした。当時、『同僚の別の女性』とあらぬ噂を立てられたりもしていたので、それをもかわす目的もあった。ともに、「木の枝を隠すための植林」である。

しかし周囲が選んだ結末は、「自分がはやしたてた候補者の中からまた別の相手を選んだ」ということであった。それが、最初にあげた『特定の女の子』なのである。

自分は今でも、好きとか嫌いとかいうのは何なのだろう、と思うことがある。今思えば、笑い話で、はるか昔の話なのだけれども、当時の自分はそれこそ「危機一髪」だったのだろう。

久保山・戸塚事業所 萩原 明宏

あの時、私を呼んだものは何だったのか

昔、私が小学生1、2年生でまだ小さかった頃の話。地域の少年団、いわゆるボーイスカウトという団体に所属していた頃、行事の一つにサイクリングという企画があった。自転車を漕いで海まで行って泳いで、また自転車に乗って帰ってくるというものだ。私やまだ小さな同期たちはただ付いていってただ遊んで帰ってくる。仕方が無い。まだ身体が小さくにも分からなかったのだから、私たちはリーダーの方や先輩たちに付いていって遊んで帰る、ただそれだけのことだった。自転車を漕いで山と田んぼだらけの地元から海がある場所まで行く。それも小さな子どもたちを先導し見守りながら行くのだ。当時のリーダーや先輩方の緊張感は計り知れなかっただろうと、この歳になってから考えられるようになった。

さて、自転車を漕いで海まで来た。道中、何回か転んだ者もいたが擦り傷だけだったので大した怪我では無かった。しかし、そんなものは危機一髪ではない。海に来て一旦集合の合図がかかり、全員整列し点呼を取り、リーダーから海に入る前の安全のための説明を受ける。この時の説明で、海に入る範囲を決められていた。腰が浸かる程度の浅瀬で遊ぶこと、それ以上は入ってはならない、と。私たちは大きく返事をして海へと入った。先に海に入っていた先輩方は遊びながらも私たち小さな後輩に気を配っていたのを覚えている。私たちは普段行かない海で目一杯遊んでいたが、同期の（名前は忘れた）1人が、近くで“魚”が泳いでいると、皆に聞こえるような声で言った。私を含めた全員が魚を探し始めたのだ。リーダーと先輩方小さな子どもたちが浅瀬から出ないように慌たしく動いた。

リーダーや先輩が私から目を離したその時である、「こっち」という誰かの声だったのだろうか、私にはなにかが聞こえた気がしてその方向に目をやった。その場所にはブカブカ浮いている“魚”がいたのだ。直前の何かの声は忘れて、私は大はしゃぎでその場所に向かうとし、海は私の動きに合わせて奥へ奥へと誘うように向かわせた。私は好奇心からか、リーダーの忠告が頭から抜けていた。腰の辺りを超えて肩が浸かるくらいになった時、やっと魚が浮いている所まで来た。手を伸ばして魚を掴もうとした途端、魚は息を吹き返したかのように動き始め、そのまま沖の方へと逃げて行ってしまったのだ。私は残念がったが、ふと、自分の置かれた状況を知った。強く念を言われていた腰に浸かる程度の浅瀬から肩まで浸かっていたのだ。

「(ヤバい)」そう感じて、引き換えそうとしたが、海は私を離そうとしなかった。この時、私は背筋に冷たいものが流れるのを感じた。足が浮いたら泳げない私は確実に流される、そう感じて慎重に確実に動いた。下手にもがいたら死ぬのを肌で感じたていたのだ。私がないのを気づいたリーダーだったか先輩か声が聞こえた。そして私を見つけて急いで手を引いて、浜辺まで運んでくれた。私は魚がいたことと逃げられた事を告げると、もの凄く怒られたのを覚えている。

これが“私の危機一髪”である。当時のことを思い返すと、あの時間こえたものは何だったのか今でも分からない。だが、小さな子どもというのは時に思わぬ行動をする生き物である。幼い小さなお子さんがいる家庭でも特に気をつけてほしい。

ジョブアシスト横浜 爆走お豆野郎



私の危機一髪

最近あった私の危機一髪はコロナワクチンの4回目の予約にかかりつけ内科の病院に予約の電話を入れたとき今回はワクチンの入る量が少なく今現在予約はいっぱいで次回の予約はいつになるかわからないから他の病院にしてほしいとのこと。コロナがまんえんしている今の状況でワクチンを予防対策として打っておきたかった自分はすぐ他の病院に連絡したのですが他の病院でも似たような返事で断られてしまいました。

どうしたものかと悩んでいたところ精神の通院日が来て担当の先生に相談したら精神の病院でもワクチン接種受けられるとのこと。

さっそく予約をして悩みは無事解決しました。

近くの病院では全滅だったが思わぬところで予約がとれて助かった話でした。

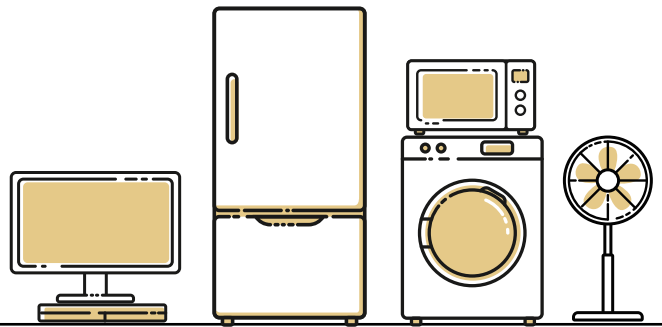


久保山・戸塚事業所 高橋 渉

私の危機一髪

はっきりと言うが私は迂闊な人間だ
危機一髪ということに心当たりはないが、それは危機に触れていないということではない
後から考えるとあれは危険だったと思うことのほうがはるかに多いということではない
風呂のカビ取りを撒いた後にふと思うのだ「あれさっき窓開けていたっけな」と
または回した洗濯機を日が暮れるまで忘れて泣く泣く室内に干し
はては調理が終わった鍋を洗おうと置いておいた鍋を持ち上げてみたらコンロの火が止まっていなかったことすらあった
料理の際、外出の際、100 回に 1 回は何かを忘れていたりする、何度も続けばさすがに自分に嫌気がさす
たかが 100 回と思う人もいるかもしれないが、これは 100 回の行動につきの 1 回なのだ
1 日となればどれほどの動作があるのやら
そのうち引っ越しで親を忘れていきそうだ

すきっぷ阪東橋 佐久間 貴俊



会費納入報告

* 2023 年 1 月 24 日時点での会費の状況です。

個人会員 50 人 法人会員 25 人 賛助会員 4 人

いつもありがとうございます。
精神保健福祉向上のため大切にさせていただきます。

編集後記

今年度も無事に SSJ ニュースを皆様にお届けすることが出来ました。
皆様が手に取った時に『わあ (^^)』と楽しく読んで頂けたら幸いです。
来年度もよろしくお願いします！

